

令和8年度 組織目標

様式1

部局名	所属名	職・氏名	項目	目標	CO2 ネットゼ ロ	業務見 直し
健康医療 福祉部	-	部長 山田 忠利 次長 小嶋 栄子 次長 切手 俊弘	2040年を見据えた持続可能な医療福 祉提供体制づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・2040年を見据え、新たなに医療と介護の連携も考慮した地域医療構 想の策定準備を進めながら、医療福祉拠点の整備と、一体的に医療福 祉連携ネットワークの構築、質の高い人材育成基盤の整備を展開する。 ・医療福祉人材の確保・定着に向けて、医療福祉現場の生産性向上をは じめ、それぞれの職種に応じたひとづくりの取組をロードマップに基づき、 推進する。 ・(仮称)第二大津合同庁舎や衛生科学センターの整備にあたっては、 ZEB Ready以上の水準を基本方針とし、エネルギー効率の高い施設の 実現に向けて着実に取り組む。 	●	
健康医療 福祉部	-	部長 山田 忠利 次長 小嶋 栄子 次長 切手 俊弘	すべての人が「いきがい」を感じ、つな がり支え合う健康しが・共生社会づく りの実現	<ul style="list-style-type: none"> ・幼少期から高齢期までの健康づくりと主体的な社会参画を支援し、 ACPも意識したすべての人が地域で生きがいを感じ、活躍し続ける環境 づくりを推進する。 ・孤立・自殺・依存・再犯等の複合課題に対し、部局や制度の縦割りを超 えて、多分野の機関と地域が連携することで、「つながり」と「支え合い」 により、誰もが安心して暮らせる共生社会づくりを目指す。 		
健康医療 福祉部	-	部長 山田 忠利 次長 小嶋 栄子 次長 切手 俊弘	動物の死生にも寄り添う、新たな「愛 護」の拠点づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・人と動物との共生は豊かな暮らしの大切な要素であり、動物愛護に関 心のない層にも働きかけるため、福祉、まちづくり、防災など多様な分野 のイベントと連携し、動物愛護や人と動物の共生意識の啓発を検討す る。 ・人と動物との絆づくりの場、動物介在活動やアニマルセラピー活動の情 報発信など、社会的な役割が果たせるよう、子どもや若者の意見を聞き ながら、動物保護管理センターのあり方に係る検討を進める。 		
健康医療 福祉部	-	部長 山田 忠利 次長 小嶋 栄子 次長 切手 俊弘	業務見直し・DX推進	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル化とICT活用により、県民利便性の向上と業務負担の軽減を 実現する。 		●
健康医療 福祉部	健康福祉政策課	課長 佐藤 雅明	共生社会の実現に向けた取組の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・権利擁護支援の推進として、頼れる身寄りがいない高齢者等への支援 を関係者で検討できる場を設けるとともに、県内3カ所以上の市町でモ デル事業を実施できるよう支援する。 ・福祉人材のロールモデルとなる「滋賀の福祉人」づくりの推進 【階層別研修の修了者:200人】 		

部局名	所属名	職・氏名	項目	目標	CO2 ネットゼ ロ	業務見 直し
健康医療 福祉部	健康福祉政策課	課長 佐藤 雅明	戦争の記憶と平和への願いの次世代 継承	・「令和の語り部」育成プログラムのカリキュラム構築、受講人材の発掘 等を進め、R9年度育成開始に向けた準備を完了する。 ・新たな「へいわのこ」事業について、教育委員会事務局と連携し、県内 の半数以上の小学校の参加を得る。		
健康医療 福祉部	健康福祉政策課	課長 佐藤 雅明	【見直し・効率化】 課内の業務の電子化	・車いす使用者等駐車場利用証の電子申請化（紙申請も継続。） ・生活保護業務行政相談のKintoneによる電子化 ・社会福祉法人等の指導監査書類の電子文書化		●
健康医療 福祉部	医療政策課	課長 橋本 弘三	新たな地域医療構想の策定について	入院・外来・在宅医療、医療介護連携、医療従事者確保、精神医療など 医療提供体制全体の方向性を示す地域医療構想の策定に向け、地域の 実情を踏まえた内容となるよう、庁内各課はもとより、多様な関係機関と 丁寧に議論を重ねながら、協働して取り組む。 【保健医療計画中間見直し、外来医療計画、医師確保計画の年度内の 策定】		
健康医療 福祉部	医療政策課	課長 橋本 弘三	医師確保について	ICT機器の導入等に対する経済的支援および医療勤務環境改善支援 センターにおける人的支援を通じて、特定労務管理対象機関等の医師 労働時間短縮計画に基づく取組をはじめとした医療機関の生産性向 上・業務効率化の取組を一層推進する。 【特定労務管理対象機関における特定対象医師数10%減、ICT機器等 の導入支援延べ20病院】		
健康医療 福祉部	医療政策課	課長 橋本 弘三	看護師確保について	①資質の高い看護職の養成、②潜在看護職の復職支援、③勤務環境改 善等による定着促進、④地域・領域別偏在の調整の4本柱による、将来 の地域医療を見据えた看護職の安定的な確保に向けた総合的な取組 をすすめ、看護職員就業者300人／年増加を達成する。		
健康医療 福祉部	医療政策課	課長 橋本 弘三	【見直し・効率化】 AIやしがネット受付の積極的な活用による業務効率化	・しがネット受付の活用推進【活用できるすべての照会・回答等に利用】 ・あらゆる場面においてAIを活用し業務効率化を図る【課内全員、月30 分以上の減】		●
健康医療 福祉部	健康危機管理課	課長・追立 茂	災害・感染症等に機動的に対応できる 健康危機管理体制強化	・近畿地方DMATブロック訓練の企画、運営 【訓練参加機関におけるEMISでの被害状況報告率 100%】 ・地域における感染対策ネットワークの構築 【Shiga HAI-Netのフォローアップ研修受講率 80%】 【各圏域の関連会議への病院参加率 100%】		

部局名	所属名	職・氏名	項目	目標	CO2 ネットゼ ロ	業務見 直し
健康医療 福祉部	健康危機管理課	課長・追立 茂	衛生科学センターの機能強化	<ul style="list-style-type: none"> ・新センターの令和9年度中の供用開始に向けた着実な施設整備 実験什器メーカーの選定【R8.6契約締結】 整備スケジュールに沿った進捗【R8.11実施設計の完了】 ・大学・民間と連携した取組の創出【3事業】 	●	
健康医療 福祉部	健康危機管理課	課長・追立 茂	【見直し・効率化】 事務効率化の推進:ノーコードアプリ、 AI等の活用による業務効率化	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用した各種研修・訓練の実施 ・文書管理システムによる100%電子化 		●
健康医療 福祉部	健康しが推進課	課長 西川 政宏	運動習慣定着のための歩く環境づくり の推進	<p>「自然に健康になれる環境づくり」を推進するため、健康推進アプリ 「BIWA-TEKU」を活用した協力店舗の利用特典等をインセンティブと することにより、「気軽に歩く+10(プラステン)」を全県でムーブメントと して展開する。 【BIWA-TEKUアプリ新規登録者数7000人以上】</p>		
健康医療 福祉部	健康しが推進課	課長 西川 政宏	健康データやAIを活用した健康づくり の推進	<p>健康診断結果と健康推進アプリ「BIWA-TEKU」から得られるライフログ データをAIで分析し、個別の生活習慣アドバイスをフィードバックでき るシステムを構築するとともに、健康無関心層となる30~40歳代を中心 とした働き盛り世代を対象に、健康経営に取り組む企業への支援ツール として提供する。 【参加者の1日あたりの平均歩数+1000~1500歩】 【参加者のうち健康管理に気を付けるようになった人の割合60%】</p>		
健康医療 福祉部	健康しが推進課	課長 西川 政宏	口腔衛生センターの機能移転	<p>障害者への高度な歯科治療や歯科保健サービスの提供を充実させるた め、県立総合病院や関係団体等と連携強化のもと、口腔衛生センターの 機能移転について調整を進める。</p>		
健康医療 福祉部	健康しが推進課	課長 西川 政宏	【見直し・効率化】 効率的な会議運営とチェック体制の強 化	<ul style="list-style-type: none"> ・Web会議等を活用して効率的な会議運営を行うほか、協議資料を事 前に共有することで協議時間の短縮を図る。 ・個人情報への漏洩を防止するため、ホームページ掲載やメール送信等 を行う場合、チェックシートを活用し、複数人による確認を確実に 行う。 		●

部局名	所属名	職・氏名	項目	目標	CO2 ネットゼ ロ	業務見 直し
健康医療 福祉部	医療福祉推進課	課長 長崎 幸三郎	2040年に向けた介護人材確保の着実な 実施	将来の介護職員数需給ギャップを0にするため、国内・海外の人材確保・ 育成・定着の取組を効果的に行いつつ、介護現場の負担軽減とケアの 質の向上を目指す介護現場革新を推進し、若年層の入職に繋がっていく 魅力発信等を行う等、介護関係団体や市町と協働し総合的に実施する。 【介護現場革新サポートデスク(ワンストップ型窓口)相談対応件数： 120事業所】		
健康医療 福祉部	医療福祉推進課	課長 長崎 幸三郎	ACP(人生会議)の展開	人生会議(ACP)の普及により、「死生懇話会」の理念を踏まえ、「どう生 きるか」を考える主体的な行動の促進を図るとともに、医療・介護等の専 門職による意思決定支援の推進を図る。 【アンケート等でのACPへの前向きな回答:80%以上】		
健康医療 福祉部	医療福祉推進課	課長 長崎 幸三郎	レイカディア滋賀高齢者福祉プランの 改定の着実な実施	現行計画を更新し、令和9年度から令和11年度までの計画を策定する。 人生100年時代や2040年に向けた高齢化・人口減少を見据え、健康 寿命のさらなる延伸と、高齢者が地域の支え手・担い手として活躍し続け られる環境を整え、高齢者が住み慣れた地域で自分らしく生きがい を持って、人生の最期まで幸せを感じられる「健康しが」の実現を推進して いく 【レイカディア滋賀高齢者福祉プランの改定:令和9年3月末まで】		
健康医療 福祉部	医療福祉推進課	課長 長崎 幸三郎	①認知症施策推進計画の策定 ②認知症施策の推進	①次期レイカディアプランに法定計画として位置付け、認知症の人とその 家族の意見や思いを踏まえた施策を推進し、尊厳と希望をもって暮らせ る社会の実現を目指す。 ②「しがの認知症オレンジプロジェクト」等を通じた理解促進と多様な主 体の参画により、認知症の人やその家族が安心して暮らせる社会の実現 を図る。 【認知症施策推進計画の策定:令和9年3月末まで】		
健康医療 福祉部	医療福祉推進課	課長 長崎 幸三郎	【見直し・効率化】 ICT、AI等の積極的な活用による業務 効率化	・課内のDX推進チャレンジャーの養成【3人】 ・文書管理システムの完全電子決裁の推進【課内全員1回以上】		●
健康医療 福祉部	障害福祉課	課長 石田 直人	共生社会づくりのさらなる推進	・差別解消の実効性をより担保するための共生社会づくり条例の一部改 正案について、令和8年11月定例会議の上程を目指す。 ・SNS等も含めた周知啓発の強化や相談体制の充実を図る。 ・共生社会の実現に向けた新たな障害者プランを策定する。		

部局名	所属名	職・氏名	項目	目標	CO2 ネットゼ ロ	業務見 直し
健康医療 福祉部	障害福祉課	課長 石田 直人	地域でともに暮らせる基盤づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・医ケア児等専門的支援が必要な子ども・家族への支援を推進する。 ・信楽学園や療育センター等、県立施設のあり方見直しを推進する。 ・滋賀の福祉を支える人材確保・ひとづくりを推進する。 ・精神障害にも対応した包括的支援体制づくりや自殺対策、依存症対策、高次脳機能障害のある方への支援を推進する。 		
健康医療 福祉部	障害福祉課	課長 石田 直人	障害者手帳の適正かつ円滑な交付	<ul style="list-style-type: none"> ・市町の国標準化システムへの対応も踏まえ、障害者手帳システムの更新に向けた検討を進める。 ・進捗管理の徹底、書類の保管および廃棄に関するルール化を図るとともに、円滑な事務処理に資するよう各種様式の変更や、書類のデータ化を図る。 		
健康医療 福祉部	障害福祉課 社会活動推進室	課長 石田 直人 室長 善利 恵子	様々な主体と連携した社会活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・手話等による意思疎通促進条例の見直しを施策とセットで推進する。 ・企業や団体等と連携した障害者の就労支援や工賃向上等の取り組みを進める。 ・企業等と連携のもと、ICTを活用した社会活動支援施策を検討する。 ・発達障害者への相談・診療体制の充実を図る。 		
健康医療 福祉部	障害福祉課 社会活動推進室	課長 石田 直人 室長 善利 恵子	【見直し・効率化】 新しい政策にチャレンジするための業務 見直し・効率化	<ul style="list-style-type: none"> ・しがネット受付サービスの活用増加など、事務の電子化を進める。 ・事務負担に留意しつつ、紙決裁・供覧を段階的に廃止する。【完全電子決裁の利用課内全員1回以上】 ・課員全員が1回以上所管施設等を訪問する。 		●
健康医療 福祉部	薬務課	課長 辻 朋子	薬剤師確保対策事業の推進	就学資金返済支援事業、インターンシップ事業および未来の薬剤師確保対策事業等により、県内の薬剤師就業先の地域および業態の偏在解消を図る。		
健康医療 福祉部	薬務課	課長 辻 朋子	若年層に向けた献血および骨髄等移植の広報啓発	<p>SNSを活用して、主に若年層に向けて献血および骨髄等移植の広報啓発を行うことで、若年層の献血者数および骨髄ドナー登録者数の増加を目指す。</p> <p>【献血、骨髄等移植で関係団体と協力し、それぞれ1つ以上SNSを活用した広報物を作成する】</p>		
健康医療 福祉部	薬務課	課長 辻 朋子	【見直し・効率化】 DX推進による業務効率化	<ul style="list-style-type: none"> ・課内のDX推進チャレンジャーの養成【各係1人】 ・医薬品等の承認における、完全電子決裁の推進 		●

部局名	所属名	職・氏名	項目	目標	CO2 ネットゼ ロ	業務見 直し
健康医療 福祉部	生活衛生課	課長 並河 孝至	動物の愛護管理の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・動物愛護管理推進計画(第3次)(計画期間:令和6年度~15年度)に基づき、多機関と連携した取り組みにより引き取り頭数の減少と実質的な致死処分ゼロを目指す。 ・動物保護管理センターの更新に向け、子どもや若者の意見を広く聞き、また、社会福祉団体や学識経験者を委員としたあり方検討を行う。 		
健康医療 福祉部	生活衛生課	課長 並河 孝至	食中毒事故発生時における施設・食品事業者の迅速な対応の強化	高齢者福祉施設における食中毒発生時の危機管理対応強化のため、施設や給食事業者を対象とした健康危機管理シミュレーション(模擬訓練)を実施する。(令和8年10月頃)		
健康医療 福祉部	生活衛生課	課長 並河 孝至	大規模・広域にわたる食中毒の発生防止	<p>食品安全監視センターが所管する、大規模弁当調整施設や広域に流通する食品の製造施設に対して、専門監視を実施する。</p> <p>所管施設:339施設 監視目標数:911許可</p>		
健康医療 福祉部	生活衛生課	課長 並河 孝至	【見直し・効率化】 完全電子決裁の推進(ペーパーレスの推進)	<p>完全電子決裁率45%を目指す (R7年度2月末現在29.8%で健康医療福祉部1位であるが、押印決裁400件を見直す。)</p>		●
健康医療 福祉部	医療保険課	課長 古川 智一	国民健康保険の保険料水準統一の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・国の保険料水準統一プロジェクトチームとの協議および市町との協議により、令和8年度中に市町納付金の精算制度を創設する。 ・地方単独医療費助成事業の実施による国負担金減額調整に係る一般会計繰入金の繰入基準について、市町と協議し令和8年度中に統一を図る。 ・保険料(税)の減免基準について、市町と協議し、令和8年度中に統一を図る。 ・これらをふまえた第3期滋賀県国民健康保険運営方針の中間見直しを行う。 		
健康医療 福祉部	医療保険課	課長 古川 智一	国民健康保険の保健事業の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度に開始した二次骨折予防対策事業を検証し、8,9年度にモデル事業の拡大を図り、令和10年度の全県展開を目指す。 (R8年度は検診対象者数約400人(見込み)のうち30%の受診を目指す。R7年度実績23.8%) ・市町、他保険者、医療機関との協議により、特定健診受診率や特定保健指導実施率向上に向け、新たな施策を決定する。 		

部局名	所属名	職・氏名	項目	目標	CO2 ネットゼ ロ	業務見 直し
健康医療 福祉部	医療保険課	課長 古川 智一	後期高齢者医療制度の円滑な運営	<ul style="list-style-type: none"> 第10期(R8,9年度)保険料に基づく滋賀県後期高齢者医療広域連合の財政安定運営のため連携を図る。 高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施について、国が提示する新たな取組基準に対する支援を行う。 		
健康医療 福祉部	医療保険課	課長 古川 智一	【見直し・効率化】 資料等の電子化を進め、課内資料の整理を推進	<ul style="list-style-type: none"> 会議資料、課内協議資料の電子化と電子決裁をさらに推進。(R8年2月時での電子決裁率80.7%を少しでも高める。) 研修開催について、アーカイブ方式により事前に録画し、効率的な受講に務める。 		●
健康医療 福祉部	医療福祉連携室	管理監(室長) 原田 智弘	医療福祉拠点の実現に向けた取組の推進	<ul style="list-style-type: none"> 令和11年4月に看護系学部が開設できるよう実習先の確保など事業候補者と連携して取り組む 令和9年度に供用開始を予定している(仮称)第二大津合同庁舎が医療福祉センター機能を持続的に発揮できるよう、(仮称)医療福祉連携ネットワークの立ち上げ、および医療福祉関係団体が円滑に入居できるよう準備を進める 		